

善隣

No.549 通卷816

2024年（令和6年）7月1日発行（毎月1日発行）

2024

7



一般社団法人 国際善隣協会

去る5月末日の理事会において、今期国際善隣協会代表理事・会長に就任いたしました。よろしくお願ひ申し上げます。

内外情勢が激変する今日、私たちは何処に在るのでしょうか。この機会に、過去を振り返り、現在を評価分析し、将来を展望する中で、当協会の在り方を考えていきたいと思ひます。

25年前1989年は冷戦が終結し、今後は市場経済システムが全面展開し、平和な世界が到来するとの楽観論が出てきました。

しかし、現実の進展は、「リーマンショックに見られる実体経済から離れた金融システム」「貧富の格差拡大」「地球温暖化に伴う気候変動」など近代経済社会システムの問題点を現代社会に突き付けています。

また、コロナウィルス・パンデミックにより改めて現代人類社会の脆弱性が浮き彫りにされました。それにもかかわらず、現実世界は、ロシアのウク

ライナ侵攻、イスラエルのガザ侵攻など世界平和の実現を阻んでいます。

1972年、ローマクラブは「成長の限界」を提示し、また、同年「国連人間環境会議」がストックホルムで開催されました。この動きは、20年後の1992年、ブラジルで「国連環境開発会議」（地球サミット）開催、「環境と開発に関するリオ宣言」「持続可能な開発のための行動計画」アジェンダ

代表理事・会長就任にあたって

会長 井出亜夫

20「採択、以降一連のCOP会議、2030年を目指した国連SDGs」目標の動きとなっています。

世界の情勢は、米国一極体制から米中二極体制の色彩が徐々に強まり、米国は、中国を念頭においたデカップリング政策の動きを取っています。世界第二の大国となった中国は習近平体制の下、中華民族の再興を呼びかけ、一帯一路政策を進めています。

また、G7の会合は、G20との連携なしに、事態は進展しません。

他方、情報社会の進展は、その度合いを強め、ビッグデータの活用、AIの利用は、情報の分析、伝達の革新をもたらし、また、新たにセキュリティの確保が求められています。一方、都会への人口集中、地方の疲弊の是正・振興などに新たな手掛かりを与えることも期待されます。



世界は大きな転換期にあり、また、現在の日本は、明治維新、戦後改革

に次ぐ新しいパラダイムの形成、世界の中での日本の役割、第三の開国が求められています。

こうした中で国際善隣協会が、鳥の眼で見、時の眼で見た活動をいっそう展開することがますます求められていますと痛感する次第です。

会員の皆様のいっそうのご尽力・ご協力と当協会からの発信をお願い申し上げます、就任のご挨拶いたします。

善 隣 目 次 2024年 7 月号

代表理事・会長就任にあたって井出亜夫

公開講演会記録

揺れるアメリカ
—暮らしの中から見える人と社会佐藤嘉信 2

日中交流の過去及び現状と展望井出亜夫 11

忘れてはいけない！ 中国の民衆の中で深く絆を結んだ人々を
—『「満蒙開拓民」の悲劇を超えて』を上梓して思うこと大類善啓 15

陶々俳壇馬場由紀子 23

中国ウォッチング編・訳 上松玲子 24

協会通信・会員だより・同好会だより 26

2024年 7 月の行事予定 27

善 隣 第549号 通巻816号
2024 (令和 6) 年 7 月 1 日発行
発行所 〒105-0004 東京都港区新橋 1-5-5
一般社団法人 国際善隣協会
TEL 03 (3573) 3051
FAX 03 (3573) 1783
発行人 井出亜夫
編 集 原田克子
編集協力 朝浩之、山谷悦子
印刷所 (有)ゆにおんプレス
TEL 048-834-1201
定価 一部400円 年額4,800円
振替 00120-0-145956
国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345
©禁無断転載

みんなの写真館 26
(姜晋如、新宅久夫)

当協会は、中国ならびに近隣諸国との相互理解を深め、友好親善・交流を推進しています。
一般社団法人 国際善隣協会

揺れるアメリカ

—暮らしの中から見える人と社会

佐藤嘉信（会員）



世界にとって「分断のアメリカ」が今年最大のリスクになると報道された。

分断が深刻化し、国への信頼が下がり、行き場のない不満をもつアメリカ人の心のうちを表す調査結果がある。

「アメリカが正しい方向に向かってる14%」、「間違った方向に向かってる85%（ニューヨーク・タイムズ）」、大半の人が困惑し「アメリカ人であることを誇りに思う38%（ギャラップ調査）」はこれまでで最低の数字。アメリカ情報は日本にあふれているが、暮らしの中から見える揺れるアメリカの人と社会を考える材料を報告したい。

移民の国、矛盾に満ちた国

世界で最も多くの移民を受け入れるアメリカにはさまざまな人が来た。1620年メイフラワー号でわたった102名には宗教の自由を求めて来た人、戦禍や政治迫害から逃れて来た人、売買され強制労働についた人、養子縁組で来た人、そしてアメリカンドリームを求めて来た人がいる。ヨーロッパからの移民が作った東部13州が1776年独立しアメリカ合衆国となった。その後、イギリス、フランス、スペイン、

メキシコ、ロシアなどから領土を譲り受けた。1619年から1865年まで奴隷制があり、第二次大戦後にアジア、メキシコ、中南米などからの移民が急増し、人種、生活様式、信条、宗教、価値観などが異なる多様な国となった。国勢調査によると家で英語以外の言葉を話すのは5軒に1軒、350以上の言語がとびかう。自由と平等を建国の理念にうたいながら奴隷制があったことは最大の矛盾であり最大の汚点だった。その後1964年公民権法、1972年雇用機会均等法を制定し、政府、学校、企業、そして国民の懸念



「自由の女神」友人の Chris Woodard 撮影

な努力がなされ自由と平等（結果の平等より機会の平等）を重視し多様性を強みとする社会を目指した。不法移民（滞在ビザを持たない人）の子どもであっても公立学校を高校まで無料で学ぶことができる寛容さがあり、人を採用するとき面接で、年齢、人種、肌色、性別、出生国、宗教、障害、結婚、家族に関する質問は厳しく禁止されている。

アメリカ自動車産業が壊滅的打撃を受けた1980年ごろ貿易摩擦やジャパンバッシングがあり、アメリカの先行きが懸念される時期もあったが、I

Tや電気自動車などの産業を生み出し経済を回復したのはアメリカだった。多種多様な国民を一つにまとめる課題を抱える人工国家が世界の人々に影響を与えている。時には恐れられ反発を受け、一方で尊敬や憧れの対象となり、矛盾に満ちながらもアメリカは世界をリードする。

戦後の日本も目標にしてきた。

矛盾に満ちたアメリカ、先進医療がありながら十分な医療を受けられない人が多い。高度な教育や新しい産業があり経済力は世界一ながら貧困率が高い。仕事を立て込むと一人でも抜けると痛い、ところがアメリカ人は平気で休暇をとる、一人一人のアメリカ人はすこぶる個人主義、一見バラバラ。しかし、い

ざとなると団結し、公共の利益のために力を尽くしボランティアに熱心、国のため

に戦い、国家としてまとまる。1991年の湾岸戦争、2001年の同時多発テロのとき、住宅、店舗、大学キャンパス、いたるところに星条旗がはためいた。お金にシビア、しかし一方では所得の高い人だけでなく誰もが寄付し、企業より個人がはるかに多い寄付文化、日本の比ではない。必死に競争し勝つことが大好き、ヒーロー大好き、オープンでフレンドリー、前向き積極的が美德。謙虚が美德でありお客様は神様、お上という考えがある同質社会の日本とは全く異なり、人は一人一人ちがう、人として対等。一人一人が自分の意見を主張するアメリカの暮らしの中に、医療保険、税、移民、人種差別、雇用、所得格差、教育ローン、銃犯罪、中絶、ジェンダー、訴訟、最高裁判決など激しい対立がある。

表面化した政治不信

2016年大統領選候補のテレビ討論会にドナルド・トランプが登場し、ルールを無視し話に割り込む、事実と

思われない話で口汚くののしるさまは異様だった。それまでのアメリカは、

公人は人種差別や女性蔑視は慎むべきという公正さが重んじられ、大統領は国の象徴、最高責任者としてきた。アメリカの威厳や品性が著しく損なわれ、ABCニュースは歴史上最低の討論会と報じ、マクロン仏大統領は「トランプの発言は品性を欠いている」と批判した。その後には議会の応酬も過激になり、予算が成立せず、1981年から14回も政府機関が閉鎖になる政治機能不全が起きた。社会にも不信と対立が増え、連邦議会に対する信頼度は2020年9月には17%になった(ギャラップ調査)。

自由の女神まで対立のネタに

移民なくして成り立たないアメリカ。観光、レストランやホテル業界は移民に依存し、ベビシッターやエッセンシャルワーカーも移民労働に頼る。偏見はそう簡単になくならないが、法律でしぼり、教育を尽くし自制心を働か

せても、何かのきっかけで人種差別が顔を出す。

自由の女神像のそばのエリス島は、1954年まで約60年間移民局があり、自由の国アメリカの玄関、希望の島だった。当時は移民の5人に2人がこの島を通った。祖父母や両親から聞いた話を懐かしむ友人たちと何度も自由の女神を見に行った。アメリカ独立100周年を祝い、独立運動を支援したフランス人の募金によって1876年に贈られ、アメリカの自由と民主主義の象徴になっている。

自由の女神の台座にはエマ・ラザラスの詩が刻まれている。

「疲れ果て貧しさにあえぎ、自由の息吹を求める群衆を私に与えたまえ、人生の高波に揉まれ、拒まれ続ける哀れな人々を。戻る祖国なく、動乱に弄ばれた人々を、私のもとへ送りたいまえ。私は希望の灯りを掲げて照らそう、自由の国はここなのだ」と(訳・青山沙羅)。

台座の詩について、2019年テレビに登場したトランプ政権高官の発言が批判を浴びた。

司会者から「自由の女神『疲れし者、貧しき者を我に与えよ』もアメリカの精神の一部だと同意するか」と問われた高官は、その質問に「公的負担とならない移民」は歓迎すると発言。別の日にトランプは、自由の女神像の詩について「アメリカに移民を希望する人

たちにかかるお金をアメリカの納税者が負担するのは公平ではない」、アメリカは自国のことだけ考えればいいと答えた。

大統領選挙、暴力沙汰の恐怖

大統領選挙結果に不満をもつトランプに同調した人たちが2021年1月6日合衆国議会議事堂を襲撃し、警察官など5人が亡くなり1000人以上が拘束される大事件が起きた。容疑者は収監されている。ところが2024年3月11日、トランプは「収監されている人の釈放は大統領として行う最初の仕事」と発言し波紋を呼んだ。

メキシコからの不法移民が急増し、国境管理をめぐるフロリダ州やテキサ

ス州と政府が2024年1月に激しく対立、さらに両州がバスや飛行機で移民に寛容なシカゴやワシントン、ニューヨークに一方的に不法移民10万人を送りつける事件が起きた。ニューヨーク州法では「泊る所のない人は避難所利用の権利がある」、非人道的とするニューヨーク市長との対立も起きた。

2024年11月の大統領選挙、トランプは負けても負けを受け入れないだろう、勝利しても世界におけるアメリカの地位が低下し、アメリカからの支援が打ち切られ世界は混乱すると国際政治学者イアン・ブレマーは分断の深刻化に警鐘を鳴らしている。元大統領夫人のミシェル・オバマはインタビューで、「大統領選に強い恐怖を感じている」「大統領にだれを選び、だれが就くかは、国民は当たり前ととらえがちだが」「私たちはこの民主主義を当たり前と思っ

数はいずれの候補者も望んでいない。

民主主義は教室から始まる

アメリカには日本のような検定教科書はなく、市民が選挙で選ぶ自治体ごとの教育委員会が決め、教育方法はすべて教師に任されている。小中高の義務教育に6・3・3制の規定もなく、自治体ごとに学年数は異なり、優秀な生徒の飛び級もある。小学校に入ると子どもたちはクラスのルールを作ることから始まり、教育理念は民主主義。

社会科のカリキュラムでは「私たちの権利とは何か」「公職に就いている人の役割は何か」「多様な人種と文化の社会をよくするには」「より良きアメリカ市民になるために必要なこと」などを学ぶ。合衆国憲法修正第1条「政府はいかなることがあっても国民の表現の自由を制限できない」を理解し、建国時に代表選に最も時間がかったことから「為政者にだまされな

の意見を聞く教育もする。生徒に、大切にしているものを一つ持ってこさせ、皆の前で発表する「Show and Tell」生徒が興味ある記事を持参し、その内容を発表させWhyやHowなどを駆使し、核心をつく考察「Critical Thinking」を学ぶ。日本人に比べ堂々と意見を述べるアメリカ人が多い、小さいころから鍛えられたものだ。

どの教室にも星条旗があり毎朝8時半、校長先生のアナウンスで全生徒が星条旗に向かって、右手を左胸に置き、全員で唱和する。「私はアメリカ合衆国の国旗に、そしてそれが象徴する共和国に、神のもとで一國として分たれずに存立し、すべての人に自由と正義が約束されたこの国に忠誠を誓います」。「Oh, say can you see」から始まる国歌や国旗は「アメリカ人であることの誇り」にもなっている。

自立心を育てる、働かざる者食うべからず

家庭や学校では「自分で選ぶ」「自

立心を育てる」教育がある。「自分で決める」ことが、「自分の人生を自分でコントロールする」ことにつながるというのだ。

子どもが歩けるようになったら親と別の部屋を用意する。親も子も生まれたときから、一人一人ちがう、別の人格と見ている。小学校1年生、社会科の授業では生徒自身が親に手伝わってもらいお巡りさんや消防士などに講義を依頼し仕事や働くことの意味を学ぶ。

日本のように、何もしないのに小遣いを与えることはしない。芝刈り、買い物など手伝いの代価として支払い「働かざる者、食うべからず」を身につける。共稼ぎが多く、弁当も子どもが自分で作る。ガレージセールでは子どもたちが出品に値づけをし、夏はレモネードを販売しビジネスや金銭感覚を身につける。中高生はアルバイトができる16歳になると自動車免許が取れる、親が助手席に乗って公道を走りサインすれば実地試験は合格、学業成績がよいと自動車保険も安くなる。家庭でも学校でも、自分の力でどう生きる

かを教えている。

学校教育の原資は不動産税、地域格差は当たり前

アメリカの公立学校は不動産税 (Property Tax) を財源に運営される。不動産税が高い学区ほど教育レベルが高いのが一般的。不動産価値が高ければ教育予算が潤沢で、高い給与で優秀な教員を雇い、少人数教育も可能になる。不動産価値が低い学区では十分な財源を確保できず高い教育が期待できにくいだけでなく、治安にも影響している。

日本はどこに住んでも固定資産税は1・4%だが、アメリカは経済格差が地域間格差、教育格差にもなっている。格差是正に教育は欠かせないが、地方自治体の財政力と教育格差はアメリカの社会問題でもある。

このことから、アメリカ人は家族構成や所得の変動によって引っ越しをする人が多い。「公平な納税」とそれに見合う社会還元を期待する気持ちが強

く、人々は税の使いみちには、厳しい目をもってしている。納税者意識が極めて高いのは、会社勤めの人も各自が納税申告をしなければならぬことによる。自分の納税額はいくらか誰もが認識している。

「代表なくして課税なし——No Taxation Without Representation (議会に代表を送る権利のない人に一方的に税を課すのは不当)」という、税がきっかけで起きた独立戦争当時の言葉が残っており、大統領に納税問題があれば、「公平さに欠ける」と高い関心が集まる。

新型コロナ、広がる経済格差

疾病予防管理センターによれば、コロナの死者は103万5469人とアメリカが世界で最も多かった。2番目に多いインド(52万人)の約2倍。コロナ感染にも人種間格差があり、住宅事情や職業から黒人の死者が最多であった。オバマ大統領が2010年に成立させた公的医療保険制度オバマケアは、

コロナ禍で医療保険の必要性を知る機会になり、無保険者は2022年時点で国民の8・0%に減ったが、まだ2640万人が無保険状態にある。医療費は極めて高く、感染入院すれば約7万5000ドル(約833万円、当時1ドル110円)。オバマケア導入で社会保険料が増え、国家依存が助長され財政赤字が増え「大きな政府になる」と意見対立がくすぶっている。

企業も個人も税務申告するので当局に銀行口座情報があることから、3回のコロナ支援金は直接振込み、口座情報がない人には小切手が届き、驚くほど迅速だった。調査によるとコロナ支援金の使途は消費38%、貯蓄24%、ローン返済38%とアメリカの経済力が維持され、エッセンシャルワーカーに対する社会の認識が変わった一面もある。コロナ禍で物価が急上昇し、裕福な層と貧しい層が増え、所得格差が広がっている。1971年には全体の61%であった中間層は2021年には50%に減少し、上位層は14%から21%に増え、下位層は25%から29%に増加した。2

021年世界貧困率ランキングでは、日本11位15・7%、アメリカ12位15・1%、日米ともに、これで先進国かため息が出る。

「大学は自力で行く」アメリカの常識、重荷の教育ローン

小さいころから自立心を育むアメリカでは、裕福な家庭の出身であっても、「奨学金を得て自分で大学に行く」と考えるのが常識。州や民間にはさまざまな奨学金があり、それを獲得することも優秀な学生の条件となっている。返済を要する奨学金を借りた場合は金利が高いので、親が一時的に返済代行しても、子どもが親にその金額を返済するケースがほとんど。

難関大学の学費は年間8万ドル、4年間では32万ドルを超える。授業料、部屋代、食事代など多くの学生は奨学金、ローンなどで賄う。米国教育統計センターによると、大学生では70%が何らかの学資援助を受け、62%が返済不要の奨学金を受給し、39%が学資ロー

ンを利用している。アメリカの大学図書館は24時間やっていて学生は猛勉強する。高学歴ほどその後の収入が高く失業のリスクが少ないことが影響している。行き過ぎた能力主義が無意識の差別につながり、分断を招いたと指摘する学者もいる。

連邦最高裁判決に不信と対立

法務省によると2022年の弁護士数は、アメリカは日本の30倍の126万人、人口260人当たり弁護士11名。10万人当たりの訴訟件数は日本651件に対しアメリカ3095件、極めて訴訟が多い。

早くから陪審員制度があり、マクドナルドの熱いコーヒーで火傷し2億円で和解した判例があるなど裁判が身近にある。

大統領は2期務めても最長8年の任期だが、連邦最高裁判所判事の任期は終身、30年も40年も判決にかかわるの社会に与える影響は大きく国民の関心は高い。

女性や少数派人種を擁護し、国民に人気があったギンズバーグ連邦最高裁判事が87歳で亡くなり、2020年トランプ政権時に連邦最高裁判事9人のうち保守派6人、リベラル派3人となり、リベラルと保守が逆転した。

判事が新体制になり、これまで容認してきた判決を覆す判決が相次ぎ国民の不信が高まり、銃規制、中絶、移民、人種差別、LGBTQ、学生ローンなどで意見対立し、分断の大きな要素になっている。

アメリカの生活習慣にはキリスト教由来のものがある。食事の祈り、イースター、サンクスギビング、クリスマス、洗礼とクリスマスチャンネーム、冠婚葬祭……、国教の定めはないものの、政治にも大きな影響を与えている。国勢調査では、人口の70%がキリスト教徒、どの宗教にも属さない割合は23%。キリスト教福音派が主張する中絶禁止について、連邦最高裁は1973年に中絶を適法と容認した判決を覆し、2022年6月人工妊娠中絶は違憲とした。身体の保護より聖書の記述が示す

中絶禁止を重んじ判決を下した。1969年ニクソンが大統領選挙で中絶禁止を取り上げたことが政治案件化し分断が続いている。

108年も前に銃持ち歩き制限をしたニューヨーク州の判決を連邦最高裁は適法と容認したが、2022年6月には違法として覆した。2023年12月ラスベガスの大学キャンパスで日本人の先生が銃乱射事件に巻き込まれて死亡した。銃乱射事件の発生件数は2023年300件を突破、判決が議論を呼んでいる。

大学の多様化を図るため1978年に適法と容認していた入学の人種優遇措置アファーマティブ・アクションを2023年6月には違法として覆した。連邦政府は1960〜1970年代に、企業にアファーマティブ・アクションを推奨し人材採用の多様性を考慮しているが、違憲判断を受け今後の人材採用に注目が集まっている。

2022年8月バイデン大統領が学生ローンの返済免除を発表したが、2023年6月には最高裁はこれを憲法

違反とした。

調査によれば対象学生一人当たりの2023年借入残高655万円、連邦最高裁判決に意見対立が続いている。

トランプは反乱公務員、大統領候補の資格なしとした2023年のコロラド州の判決を覆し、2024年3月違憲とした。

2022年のシカゴ大調査によると「連邦最高裁をとて信頼している18%」は1973年の調査開始以来最低。同年のギャラップ調査で「裁判所の判断はほとんど政治に基づいていると思う57%」、「ほとんど法律に基づいていると思う36%」、連邦最高裁に対する国民の信頼は、過去16年間続けて低くなっている。

犯罪増加、刑務所民営化は失敗

犯罪や集団万引きも増え、店舗では監視カメラに加え防犯ロボットまで設置して対策するが都市部ダウンタウンでは閉鎖も余儀なくされている。

アメリカ人の感覚で77%が犯罪は増

えていると回答した調査もあるが銃規制は後退した。1981年レーガン政権から刑務所の民営化が進んだ。「民営刑務所は質を下げずに税金を節約でき、犯罪も減らせる」とされたが、安全性、人権侵害の点で政府運営の刑務所よりも劣るとして、民営刑務所を段階的に減らす方針を司法省が示した。

安全な住居、ゲートッド・コミュニティ

アメリカは社会階層ごとに居住地が分かれ、居住地ごとに買い物する店、レストラン、乗る車やライフスタイルも異なる。ゲートッド・コミュニティとは、住宅地の周囲を塀で囲み、住人以外の敷地内への出入りを制限することで、防犯対策を強化させた住宅地のこと。300〜500戸の住宅がフェンスに囲まれ、入口にセキュリティゲートがあり、クラブハウス、プールなどをそなえ、中間層が安心して暮らせる住宅が増えている。

白人と黒人で居住地域や学校などを

分ける分離政策は、20世紀後半までに廃止されたが、自治的に安全管理することで治安維持にかかる費用も減り、自治体に歓迎されている。日本では住宅は公道に接している建築基準がありこのようなコミュニティは認可されない。

さらに多様化、手が届かないアメリカンドリーム

シンクタンクによると、総人口に占める白人の割合は、1960年は85%だったが2020年には58%に低下し、2050年には半数を下回る47%と推計されている。

一方で、ヒスパニック（スペイン語を話す中南米系）が急速に増加、総人口における比率は1960年の3・5%から2020年には19%、2050年には29%台。黒人の場合は、人口比率がほとんど変わらず、1960年には11%、2020年には12%、2050年には13%と予測。ヒスパニックが比率で黒人を上回る。

民族的多様性はさらに進む。多様化

した環境で育つ若者は肌色のちがいを超えて、一緒に通学し音楽を聴き、スポーツを楽しんでいる。大人は肌色のちがう人にはなかなか声をかけようとしないが若者はちがう。白人至上主義者の主張や活動に大半の人は違和感をもっているが、白人が少数派になったらどうなるか、不安を抱いている人々がいる。

一生懸命働けば、人種や年齢など関係なく、どんな人でも成功をつかむことができるというアメリカンドリーム。ウォール・ストリート・ジャーナル調査によると、アメリカンドリームを信じる人は2012年53%、2016年48%、2023年36%。

年齢で見ると65歳以上の人は48%が信じているが、50歳未満では28%。

また「自分たちの親の世代より豊かになっているか」との質問に、80歳代が92%、70歳代が79%、60歳代62%、50歳代61%、40歳代50%と世代が若いほど悪化している。

労働者支援の具体策を掲げていないトランプが支持されるのは、豊かにな

らない不満、移民に仕事がとられる不安などを平易な言葉で代弁し、親近感のもてる政治家だと受け取られている要素もある。

人とメディアの分断増幅、発言 しないと伝わらない国

2023年ギャラップ調査ではマスメディアを信用していない人は39%、信頼している人は32%。

新聞、テレビ、ソーシャルメディアともにネットメディアが主流になり、人は好きなものだけを見ることが多くなり情報が偏り、マスメディアは政治色が分かれ、人とメディアの双方が分断要素になっている。ソーシャルメディアを利用した大統領選挙と連邦議会議事堂乱入事件、人とメディアが分断を大きくしている。

2023年度報道の自由度ランキングによるとアメリカ45位、日本68位。コロナのとき、トランプの「チャイナウイルス」発言直後に、暴力でアジア系住民を攻撃する不幸な出来事が起き

た。ヘイトクライムの急増で、ニューヨークではアジア系と黒人住民が声を上げ、ニューヨーク市長が動きアジア系アメリカ人の歴史を教えることを義務づけた。この国は声を上げないものに耳を貸そうとはしない、発言の自由が解決の道を開くのもアメリカだ。

分断のこたえは建国理念にある のではないか

(1) グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン、電気自動車テスラなど新しい産業がアメリカ経済を一変させた。新興企業のうち54・88%は移民が創業者、新興創業者の最も多い出身国はインド。全米科学アカデミー協会は移民科学者をアメリカに呼び込むよう勧告し、過度の移民制限に警鐘を鳴らしている。

(2) 激しい分断にかかわるのは主として中年以上の世代。次世代を担う若者Z世代、1997年から2012年生まれが人口の20%、この世代は持続可能な社会を作るには、どの課題も一

国だけでは世界の問題に対応できない、他国と協調というリアルな認識と多様性への意識が高い。

(3) どんなに強烈な独裁者が現れても、権威におもねらない個人主義があり、自由平等を求めるアメリカ社会で全体主義は想像できない。国民の英知で多様性に寛容な希望の国アメリカの再生を期待したい。

奴隷制度廃止まで多くの時間がかかったものの、国民の判断基準となる建国理念があったから実現したのではない。2026年7月4日は建国250年。トマス・ジェファースンの独立宣言に掲げた建国理念は「すべての人は生まれながらにして平等である。生命、自由、幸福の追求という奪うべからざる天賦の権利を有している」であった。

(4) 混迷きわまる内向きアメリカ、資源のない日本は何もかも見習って国作りをするのではなく人や産業そして文化を活かし、諸国と協調しながら日本独自の繁栄を目指す機会ではないだろうか。

(2024年3月28日・公開講演会)

公開講演会記録

日中交流の過去及び現状と展望

井出亜夫（会員）



はじめに

2024年は、1972年日中国交正常化以来52年、平和友好条約締結以来46年が経過します。この間、人の往来、経済交流などの分野において大いなる進展があります。一方、国際関係においては、米国一極体制から、米中二強体制への進行が徐々に進んでいます。これに対し、米国主導による対中デカップリング政策の展開が試みられています。しかし、こうした米国も大統領他主要閣僚による中国側カウンター

パートとの直接対話をかなりの頻度で続けている事実も直視しなければなりません。

改革開放による市場経済化の進展と習近平一党支配による中国の政治体制、世界第二の経済大国となった中国との連携をいかに進めていくか、長い対中関係の歴史を有するとともに、対華21か条の要求、満州事変、日中戦争と戦前の過ちを犯したわが国の歴史的レゾン・デットルが問われています。時の眼で見、鳥の眼で見る政策展開がてきるか考えてみたいものです。

日本と中国—その交流の歴史

ここでは、少し視野を広げ両国の歴史的交流をたどり、両国関係の将来展望を論じてみたいと思います。

中国の正史に現れる日本は、西暦3世紀、倭国の情勢と邪馬台国女王卑弥呼の存在を記録した「魏志倭人伝」を嚆矢とし、また、『古事記』（712年）には、応神天皇（史実に疑義はあるが）の時代、百済から王仁（ワニ）が渡来して『論語』と『千字文』を献上したことが記載されています。

漢字の伝来は、万葉仮名からひらがなへの発展、日本文化への派生を生みますが、大陸との往来は、遣隋使派遣600年から618年、遣唐使630年から894年まで、古代において3世紀に及びました。遣唐使派遣における大使以下首脳グループ以外の留学生・留学僧は、今日、日本で実施中の「外国人技能実習生」の「古代日中版」とも言えます。

その後、平安以降日本文化の創造、発展も一方にはありますが、喫茶の伝来、禅僧の往来、宋銭の通貨としての使用、寧波を中心とする日明貿易など日中の交流は時を絶ちません。

礪波護（となみまもる）京都大学名誉教授は「日本にとって中国とは何か」の中で、

- ①「朝貢と畏敬の国―邪馬台国と倭国」
- ②「憧憬と模範の国―飛鳥と平安」
- ③「先進と親愛の国―鎌倉から江戸」
- ④「対等と侮蔑の国―明治～昭和前期」
- ⑤「親愛と嫌悪ないまぜの国―昭和中期以後」と日本人の中国感の変転を紹介しています。

「憧憬と模範の国」では、飛鳥、平安における交流において、「小野妹子」が聖徳太子の意「日出づる処の天子書を日没する処の天子に致す 恙無きや」を受け、遣隋使として訪中します。また、遣唐使阿倍仲麻呂は長年唐に滞在、唐の高官となった後、「天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも」と望郷の念から帰国に向かいます。仲麻呂が帰国途上、遭難死したと思った李白は、「晁卿衡（仲麻呂の中国名）を哭す」と題する五言絶句を作り、両者の友情、日中関係を偲ぶことができます。

「先進と親愛の国」では、宋代景德鎮に代表される陶磁器が、日本に伝来し、中国伝来のものに最も近いものを造ることができるとして日本の名工と言われました。また、北宋の首都開封の市街を描いた「清明上河図」には、運送屋、両替商、食堂などが描かれ、日本の中国史家は、宋代において中国では近世が実現していたと評しましたが、その影響ははるか下って、「洛中洛外図」として描かれています。

朱子学は、徳川幕府公認の学として導入されましたが、荻生徂徠は、これを批判し、儒教の原点、孔子、孟子に戻ることが主張し、また、伝来した陽明学を学んだ大塩平八郎は、王陽明の「知行合一」思想を実践し、貧民救済の乱を起こしました。

「対等と侮蔑の国―明治～昭和前期」では、明治維新による日本近代化の影響の下、多くの中国人が自国の近代化を求めて来日しますが、日露戦争後の日本は、朝河貫一博士（イェール大学教授）が『日本之禍機』（1909年）で警告する意味を理解せず、世界史の軌道を外してしまったと指摘しています。対華21か条の要求（1915年）の後、孫文は「日本は欧米帝国主義の走狗となるのか、アジアの王道を開く先駆者となるのか」と述べ日本を去りましたが、わが国は満州事変、日中戦争への道を進んでしまいました。

松尾芭蕉「奥の細道」では、「松島は扶桑（日本）第一の名所にして、遠く洞庭、西湖に恥じず」と、伝えられる中国の名所に敬意を表しつつ描写し

ていますが、「箱根の山は天下の險
函谷関も物ならず（中略）蜀の栈道数
ならず」と詠う歌詞は明治の驕りの表
れともいえましよう。

そうした中でも、仙台医学専門学校
に留学した魯迅を見守る藤野厳九郎先
生や魯迅文学の出版を支援した内山書
店內山完造、孫文の独立運動をサポー
トした宮崎滔天、梅屋庄吉、犬養毅な
ど多くの日本人の存在は、近代日中交
流の歴史に一抹の光を放っています。

東洋思想と永続企業

過日、日本を訪れた中国からの企業
研修グループは、なぜ日本には、20
0年、300年と歴史を有する企業が
数千社も存在するのかと私に問い、私
は、江戸時代300年に及ぶ平和の存
在とビジネスにおける『論語と算盤』
（殖産興業家渋沢栄一著）を紹介し、
義と利のバランスを図る東洋思想のゆ
えんにあることを説きました。

儒教、老荘思想あるいは仏教思想の
中に、永続企業存続の秘訣があるのだ

うと推察します。特に経済のグローバ
ル化の進展の下、地球環境問題や、拡
大する格差社会にどう取組むか、「21
世紀の市場経済システムは永続できる
か」という問題（世界的ベストセラー
となったトマ・ピケティの書）に私た
ちは直面しています。『論語』『孟子』
『菜根譚』など儒仏道の東洋思想には、
その解を説く要素が多数存在すること
を改めて痛感する次第です。

世界における日中の役割・責任

第二の経済大国として発展を続ける
習近平政権は、アヘン戦争以来の中国
近代史の苦悩を振り返り、中華民族の
再興を訴え、国民全体がほぼ豊か
になる国（小康社会達成）、先進近代
工業の建設、三農問題（農村、農民、
農業）、環境問題の解決を進める一方、
昔日のシルクロードの現代版ともいう
べき「一带一路政策」を展開していま
す。こうした課題で着実に実績を上げ
ることができると否かが、今後の政権
評価につながりましよう。

また、かつて物まね大国と言われた
中国が、今や特許大国・知財大国とし
て世界に躍り出ている現実も直視しな
ければなりませんし、最近、中国政府
が発信する人類共同社会の建設もその
真意を問わなければいけません。

こうした中国の近現代化のプロセス
の中で、わが国としては、①日中関係
の長い交流の歴史を想起し、②わが国
近代化の成功と失敗の歴史を評価、反
省しつつ、また、③今日の市場経済の
欠陥を克服する共通の東洋思想で意見
交換しつつ、④日中関係の将来を展望
していくことが求められます。そして、
それが、日中両国の共存共栄につなが
り、また、世界史における両国の責任
と役割を果たすことにも通じましよう。

おわりにあたって

以下の東洋思想を紹介しましよう。

①前漢・劉向
『説苑』

楚の共王出獵して、その弓を遺ふ。左

右これを求めんことを請ふ。共王曰く、

「止めよ。楚人弓を遺ふも、楚人これを
を得ん。又なんぞ求めん」と。仲尼

(注：孔子) これを聞きて曰く、「惜し

いかな、その大ならざる。また人弓を
遺ふも人これを得んと曰はんのみ。何

ぞ必ずしも楚のみならんや」と。仲尼

は所謂大公なり(国家の概念を超える
発想)。

(原文) 楚共王出獵、而遺其弓。左

右請求之。共王曰、止。楚人遺弓、楚

人得之。又何求焉。仲尼聞之曰、惜乎、
其不大。亦曰人遺弓人得之而已。何必

楚也。仲尼所謂大公也。

② 「先憂後樂」。北宋・范仲淹(989
〜1052)

『岳陽樓記』の末尾一節

天下の憂いに先んじて憂え、天下の樂
しみの後に樂しむ(指導者の心得を記
したもの)。

(原文) 先天下之憂而憂、後天下之

樂而樂歟。

③ マハトマ・ガンジー(インド独立指
導者)

「現代社会7つの大罪」

- ・ 原則なき政治
- ・ 道徳なき商業
- ・ 労働なき富
- ・ 人格なき学識(教育)
- ・ 人間性なき科学
- ・ 良心なき快樂
- ・ 献身なき信仰

④ 宮沢賢治(1896〜1933。作
家、農民指導者。日蓮宗の影響を受け
る)

「農民芸術概論綱要」

われらはいっしょにこれから何を論ず
るか(中略)

世界がぜんたい幸福にならないうちは
個人の幸福はあり得ない

自我の意識は個人から集団社会宇宙と
次第に進化する

この方向は古い聖者の踏みまた教へた
道ではないか

新たな時代は世界が一の意識になり生
物となる方向にある(中略)

我らは世界のまことの幸福を索ねよう
(後略)

(注：本稿は、『J C E C O N O M
I C J O U R N A L』(日中経済協
会機関誌)2020年3月号に「F O
C U S ―日中交流の過去及び現在と展
望」と題して掲載したものに加筆、さ
らに、2024年4月4日国際善隣協
会講演会の内容を加筆したものです。
(2024年4月4日・公開講演会)

忘れてはいけない！

中国の民衆の中で深く絆を結んだ人々を

—『満蒙開拓民』の悲劇を超えて』を上梓して思うこと

大類善啓（会員）

キッシンジャー極秘訪中

私が中国に本当に関心を持ったというか、我が内なる心から、好奇心が沸き起こるように中国に興味を持ったのは一九七一年、キッシンジャーの極秘訪中が明らかになった時だった。当時私は、男性サラリーマンを読者対象とし、売り上げトップを誇る勢いにあった週刊誌の記者だった。

その時世界の政治状況は冷戦時代と言われ、中国とアメリカは国交も回復していないだけでなく、厳しい米中関

係と言われるほどの状況だった。それ故もあり、米中の極秘接触が明らかになった時、世界はもちろん驚愕した。当時の佐藤栄作首相が「青天の霹靂」と驚きを隠さないほど、世界を揺るがしたキッシンジャーの極秘訪中だったのである。彼はニクソン米大統領の補佐官だった

この米中極秘接触をお膳立てしたのが誰だったのか、当時の私はその秘密ルートを探るべく取材をしていたところ、このことを知った仲間のある記者が、「大類さん、ちょっとおもしろい人物を紹介するよ」と私に紹介してく

れたのが、戦前の上海にいたという人物である。すでに亡くなっているであろうが、ここでは仮にAさんとしておこう。

キッシンジャーは中国を秘密訪問すべく海外を旅していたが、パキスタンの首都カラチで「身体が不調」ということで同行の記者たちを信用させ、「ホテルから一步も外に出なかった」と言われたが、実はその三日間ほどの間に、極秘にカラチから北京に飛び、周恩来総理と秘密会見し、米中国交回復の同意を確認したのだった。

アメリカは中国と接触すべく、あら

ゆるルートを探ったという。まだ中国に復帰する前の香港の裏社会を牛耳る人物ないし組織もその一つだという噂も私の耳には入っていた。

そんな怪しげな噂や奇々怪々な情報が耳に入ってくる時代の中でのAさんとの出会いだった。Aさんとの会話はすこぶるおもしろいものだったが、彼が私にもたらしてくれた中で、一番私の興味と関心を沸き立たせたのは、中国の秘密結社である青幫、紅幫という存在である。このような秘密結社のこと

に言及していくと紙数がいくらあっても切りがない。ただその時、中国の裏社会だけでなく、現に中国社会を動かす情報関係者の中にも当時、そのような秘密組織を利用し活用するだけでなく、現に結社員もいたという事実を知ったことだった。

私がAさんに、新中国になってもまだかつて上海の裏社会などを支配した青幫、紅幫などが存在するのかと聞くと、氏は「なくなっていますね。今なお存在します、というところに中国の中国たる所以があるんですよ」と言っ

た。想像するにAさん自身も戦前の上海で、その組織の一員だったのではなにか。Aさんはそのことを肯定しなかったが、とりわけ否定するような言辞もなかった。しかし察するに、明らかに青幫の一員だったか、もしくは極めて近い存在だったと思う。

中国の深部に存在していた秘密

結社

そして、この結社の存在を改めて確認し、中国社会の深部に存在し、現に民衆の中にしっかりと入っていたことを改めて確認したのは、ハルビン市方正県に關わるようになり、「満洲国」の副県長をしていたKさんと親しくなっていたからである。

ある会合の際、同じ卓を六人ほどで囲んで食事をした時、Kさんがたまた私の隣だったこともあり、やや小さい声で青幫のことを聞いてみたが、とりわけ私を満足させるような話はなかった。しかし、休日だった翌日の夕方、私の自宅に電話をかけてきて、

「実は昨日の話だがね」と切り出し、青幫が中国社会の深部に存在したことを明らかにしてくれたのだ。

Kさんは戦前、「満洲国」のある県の副県長だった。当時の「満洲国」では、一応形の上での県長は、漢族や満洲族の間になる。しかし、実質的に権限を持つのが副県長であり、その地位は日本人が占めていた。

Kさんは私に語った。自分が副県長として町や村を円満に統治するには、力を持つ地元青幫のような組織と友好的な良い関係を持つ必要があったという。そこでKさんは青幫の頭目に会い話し合った。そしてKさん自身、青幫に入ったのだと私に語ってくれた。

そうか、やはり青幫というような秘密組織が中国の民衆社会に深く入り込んでいたのだ、と納得した。そして私が出したのか、Kさんの方が言及したのか、今ではわからないが、石光真清について話が飛んだ。

石光真清は『城下の人』『曠野の花』『望郷の歌』『誰のために』を著し、旧満洲に深く入り込み諜報活動に従事し

ていた人である。私にしては珍しく、この四部作を二度読んだ記憶がある。今も手元にあるそれは一九七八年から一九七九年にかけて刊行された中公文庫版である。私は何度も古書店に本を売ったが、この四部作は今でも私の書棚にある。

Kさんはこう言うのだ。「石光真清のように中国社会に深く入り込むには、青幫のような組織に入らないと何もできないのだ」と。

私は納得し、Kさんとの長い一時間ほどの電話を終えた。

日本人公墓の存在

さて、私がハルビン市方正県に関わるようになったのは、一九九〇年代からである。すでに本誌でも、私と方正との関わりは記したこともあるので詳細は省くが、このたび、本稿のタイトルにあるように、『満蒙開拓団』の悲劇を超えて』を編著として上梓するに当たり、その内容の一部を紹介しつつ、収録された文章がこれからの日中関係

の豊かな交流を進めていく上で参考になればと思っている。

一九九三年、初めて方正を訪ねた。方正県の中心地から離れた砲台山の麓に建立されている日本人公墓を前にして私が思ったのは、日本と中国が逆の立場だったら、日本は中国人の墓を建てたのだろうか、ということだった。多分、否だろう。では今の中国政府なら日本人の公墓を建立しただろうか。これも否という答えが返ってくるのではないだろうか。

「方正地区日本人公墓」が建立されたのは一九六三年、周恩来総理、陳毅外相兼副総理が健在だった頃である。

一九六〇年、日本の作家代表団が訪中した。団長は作家の野間宏、団員には亀井勝一郎、そして若き大江健三郎や開高健らがいた。野間宏が挨拶の中で、「私たちは日本が侵略したことを忘れないし、忘れてはいけないと思う」と述べたのに対して、応対した陳毅は「我々は忘れたいと思っている。しかし貴方たちが忘れない、と言うなら日中関係はうまくいくだろう。逆に、日

本が忘れてしまい、中国が忘れない、と言うなら日中関係は良くならないだろう」と語った。

あれから六十数年、今の日中関係をどう表現すべきだろうか。

日本人公墓建立は「歴史的事業なのだ」

私は方正友好交流の会の理事長として会報『星火方正』を年に二回発行しているが、今までの会報の中で特筆に値する原稿と言えば、日本人公墓建立の仕事を命じられた黒龍江省人民政府外事処の趙喜晨の回想記事であろうと思う。二〇一〇年五月に発行した会報の記事である。

趙氏は一九六一年、二六歳の時、外事弁公室に異動を命じられ、一九六三年、公墓建立の仕事に携わるのである。彼は、当時の中国の政治、経済状態、また日中関係から言えば、日本人の墓などはコンクリート製にしてもおかしくはない状況だったという。しかし、「私たちは討論し、これは

長く言い伝えられる大仕事であるから、真剣に対処しなければならぬ。歴史の考察にも耐えうる永久的な墓碑を建てる必要がある」という結論に達し、当時の破壊されたハルビンの外国人墓地を自転車で回り、花崗岩の石碑を見つけるのだった。その碑の隅にはロシア語で「イタリア製」と彫ってある。

その花崗岩を持って石碑彫刻工場へ運んだ。すると工場の人たちは、「どうして日本人の碑を建てるのか、まったく理解できない」と言う。それもそうだろう。そこを趙氏は根気よく説明し理解してもらい、ハルビンの著名な書家に「方正地区日本人公墓」と書いてもらい、工場の人々に、「くれぐれも気を入れて彫るように頼んだ」のである。お座なりな仕事ではなく、日本人公墓建立は彼が自ら言うように、まさに「歴史的事業だった」のである。

一九六六年、文化大革命が始まった。多くの文化遺産が破壊され、多くの歴史上有名な人たちの墓が破壊された。そのような中、紅衛兵たちは日本人公墓を見つけ、壊そうとした。方正県政

府はどう対処すべきか省政府に指示を仰いだ。趙氏はすぐに上司に指示を仰いだところ、省政府の名で以下のような命令が出た。

「この公墓は中央政府が許可して建設したものだ。埋葬されているのは日本の庶民であり、日本の軍人ではない。誰であれ、どの団体であれ、それを壊してはならない」。

同時に、公安部門に公墓を保護する措置を講ずるよう要請し、公墓の周りに柵をめぐらせて警備を厳重にした。紅衛兵たちはこの状況を見て、公墓を壊すことを諦め、引き下がったのである。

周恩来総理の素晴らしさ

公墓建立のきっかけを作ったのは松田ちゑさんという残留婦人だが、彼女についても、かつて本誌で記したが、未だ多くの人が知らないであろうと思う事実をここに記して、周恩来総理に関する素晴らしいエピソードを明らかにしたいと思う。

松田ちゑさんが方正県政府に行き、自分たちで葬る許可をもらいに行くことにしたのだが、その願いは県政府から上部機関の黒龍江省政府に行き、最終的に北京の中央政府に行き、松田さんが嘆願した書類は陳毅外相を経由して周恩来総理に届いた。

周恩来は熟慮に熟慮を重ねた。なぜ、そう思うのか。

実は松田ちゑさんは文革中に「日本のスパイ」として告発され、三年半ほど留置され、死刑の告知を受けたのだ。外国人を死刑にするのは、中央政府の最高レベルの承認が必要である。そしてその書類は周恩来のところに来た。

周恩来はその書類を見て、「この松田ちゑさんは、日本人公墓を嘆願した人ではないか。彼女は無罪だ。直ちに釈放しなさい」と言ったのである。

当時、方正県政府はこの決定に驚き、間違いではないかと省政府に電話を入れたところ、省政府は「これは周恩来総理の決定である。間違いはない」と回答したのだ。松田ちゑさんが陥ったこの時の状況について周恩来はこのよ

うに対応したのである。

三五年目の真実

実はこの事実が明らかになったのは、松田ちゑさんが無罪として釈放されてから三五年後である。

ちゑさんの息子である崔鳳義さんは、母ちゑさんとともに東京に移り住んだ。そしてそれから、三五年後に故郷である方正を再訪してわかった真相である。崔さんはこの時、かつて方正県の公安局で仕事をしていたある退職者から驚くべき事実を知らされたのである。崔さんはこう書いている。

「私の母が出獄でき、無実の罪を晴らすことができたことについて、私が誰よりも感謝しているのは、他の誰でもなく、またどの上部組織でもなく、中国國務院総理周恩来である。周総理の指示によって母の命が救われたのだ。母が無実で釈放されてから三五年経って私が方正を再訪した時、私はかつて方正県公安局に勤め、現在すでに退職していた知人からこのことを知らされ

た。当時、母は捕らえられ入獄した後、

一九七一年十月、中国人民解放軍方正

県保衛部審判係（文化大革命の期間、

公安局、検察庁、裁判所はすべて軍の

管轄下にあった）によって決定され、

省の公安局に上げられた書類では、私

の母は死刑の判決だった。この判決が

省の公安厅から国家公安部に上げられ、

判決が国家刑事判決に関わるものであ

り、同時に日本との関係も考慮されたと

考えられる。そのためにこの資料は

さらに周恩来総理のもとへ回された。

周恩来総理は一九六三年、方正県で

「方正地区日本人公墓」建設を許可し

た資料によって、私の母が日本人公墓

建設の主唱者であり推進者であること

を知っていた。中国人民解放軍方正県

保衛部審判係が私の母を死刑にする

という資料の中で最も主要な罪は「方正

地区日本人公墓」の建設の上で主導的

な役割を果たしたことにあった。そし

てさらに私の母に被せられた罪名は何

の根拠もないものだった。このため周

総理は資料を見た後すぐ「無罪、即時

釈放」の指示を出したのである」（崔

鳳義著『東京回想録』二〇〇六年刊、
奥村正雄訳、『星火方正』四号所収、
二〇〇七年五月刊）。

藤原長作さんの中国への貢献

戦後の日中交流史では、有名無名の多くの人々が活躍したが、藤原長作さんほど庶民レベルにおける公益的な貢献をした人はいないのではないだろうか。

藤原さんは、一九一二（大正元）年十二月、岩手県和賀郡沢内村で生まれた。その年は、明治の年号の最後の年だった。また、東京市電の大ストライキで明けた年でもあった。当時の日本は、日露戦争以来の公債の負担と軍事費の増加による財政難に悩み、慢性的な不況に陥っていた。苦しい生活を打開しようとする大都会の人々は、各所でストライキを起こしていた。

極貧の家庭の二男として生まれた長作さんは、いつもひもじい思いをしていた。米を口にできるのは、正月とお盆の時以外にはほとんどない、という

ような状況だった。そのような環境にあったから長作は、なんとしても米の飯を食べたいと思っていた。

長作は本を読むのが好きで、二宮尊徳や秋田県の農民、石川理紀之助などの伝記を読む一方、稗田を耕し、馬の世話をして人の倍働き、人の倍稼ぐようになった。時代は昭和、世界には恐慌の嵐が吹き荒れ、東北の農村では娘たちの身売りが日常的に進んでいた。そのような中、長作は南米移民の夢を思うこともあったが、ブラジル移民の考えは事情もあり消えた。

縁談もあり、ミエという器量良しで働きの者と炭焼き小屋での新婚生活が始まった。しかしミエは生後六か月の幼子を残し死んでしまった。しかし、長作は一生懸命働きたした。

日本一の米作り

一九四一年、太平洋戦争が始まり、長作も召集されたが、南方戦線に行かずに済んだ。そして戦争は日本の敗北に終わった。

新しい時代が始まった。農地改革が進み、小作農は解放され、沢内村にも沢内更生連盟、青年同志会などの組織が生まれ、いろいろな社会講座が開催された。勉強熱心な長作は大いに刺激され、岩手大学の農学部にも通い、米作りの技術も理論も学んだ。

そうして米作り日本一になったのだ。一九五六年二月、朝日新聞東京本社講堂で開かれた「米作り日本一」の表彰式でカメラマンのフラッシュを浴びた。長作はこの時、四三歳だった。

しかし時代は大きく変貌しつつあった。米の生産調整が始まり、減反政策がやってきた。

米作りに命をかけてきた農民たちに、「米を作るな」と言うのだ。長作も悩んだ。

そのような時、満蒙開拓青少年義勇軍として満洲へ行く予定だったという五十近い男が長作を訪ねてきた。男は、「家は貧乏で水呑み百姓、おらぁ、満洲で思いきり働いて米作って飯いっぱい食うのが夢でした」と言う。

長作が「零下四十度にもなる満洲じゃ、

米作りは無理ださ」と言えば、男は「いや、満洲ではあの頃でも、米作りはしたです」と言う。

長作はその時初めて、零下四十度の満洲でもわずかながら稲作ができることを知った。満洲では高粱とトウモロコシしか獲れないと、ずっと思い込んでいたからだ。

さっそく息子が持っていた地図を取り出して見た。沢内村は北緯四十度、北京とは同じだ。改めて中国を見た。広大な平野が広がっている。北海道で稲作ができるなら、かつての満洲で米が獲れるのは当然だ。

日中が国交を回復してから六年が経とうとしていた。そんなある日、テレビのニュースで、中国へ稲作指導のため学者と技術者が渡ったと知った。驚いた長作はそれ以来、中国へ行っていたいと強く思うようになった。息子にそんな思いを口にするのと、「行ってくればいいじゃないか」と言う。息子にしてみれば、そんな強い気持ちがあるとは思っていない。

一九七九年六月末、長作は初めて中

国の大地を踏んだ。この時、満六六歳と六か月である。訪問先は、北京、上海、南京、山西省の石家荘、太原、そして大寨だった。大寨は当時、「農業は大寨に学べ」と言われ、人民公社の模範とされていた。大寨で初めて中国の水田を見た長作には、中国の稲作技術は日本の二、三十年前の水準に思われた。通訳から、稲作の実情を知ったのも収穫だった。自分は直接関係ないが、日本の中国人民に対する侵略戦争についても反省させられる長作だった。

この旅で長作は、自分の稲作技術は、やはり中国東北でこそ活かせると確信するのだった。

方正県への旅立ち

翌一九八〇年、長作は日中友好黒龍江省農業視察訪中団に参加できる機会を持った。それは、方正県へ戦後初めて日本から訪問する視察団でもあった。当時、ハルビンから方正の中心地まで五時間たっぷりとかかった。訪中団の三台のマイクロバスが方正の中心地に

着けば、二千人以上の出迎えである。その中には残留日本人も何百人かはいるといふ。涙、涙、涙の出迎えである。長作も涙なしにその光景を見ることはできなかった。

中国側との懇談が始まると、長作は中国の人々の熱心に驚いた。中国側はまた長作が「米作り日本一」と知ると大いに関心を示した。細かい質問がいろいろと出たが、長作はしびれを切らすかのように「自分にやらせてみなさい」と言うのだった。

そして翌年の一九八一年、再び方正を訪れ、老農の家に半年近く泊まり込み、長作の稲作法を実践したのだ。当初は疑問を持っていた農民も多かったが、長作の試験田の優秀なことが鮮明に明らかになってきた。農民たちは、来年は自分たちを指導してくれと懇願した。

このような方正での長作の活動ぶりは、実は本稿の表題になっている『満蒙開拓団』の悲劇を超えて』に、私が詳しく書いた文章も収録した。

長作は「日中友好水稲王」と言われ、

一九八九年には「日本の水稲王が今や中国を揺り動かしている」と称賛され、中央テレビ局の全国放送でも彼の活動ぶりが報じられたのである。そして訪中最後の九月二十九日、人民大会堂で「中国政府を代表して、あなたが中国に対して果たされた大きな貢献に感謝いたします」という言葉とともに、中国国家外国専門家局から榮譽証書を授与された。そして時の李鵬首相ら幹部と一緒に記念撮影に収まり、レセプションでは、祝宴が始まってすぐ李鵬首相から握手を求められた。

そして翌年の一九九〇年には中国政府から国慶節の招待状が届き、九月二十七日の北京の人民大会堂で中国農業奨賞を受けた。その後の宴席で、長作の生産三倍化の水稲技術は、十一省に拡大したことを知らされるのだった。

思えば、二〇〇〇年代の半ばだったか。私がハルビンのホテルで外事公室の人と昼食をとみにしていた時、彼はホテルで食事をする人々を見ながら、「中国人は今みんな、こんな美味しいご飯、米を食べていますが、これは藤

原さんのお陰です。中国の人たちはみんなこのことを知っています」と言い、本当に驚いた。それほど功績を長作は中国にもたらしたのだ。

中日友好園林の中は…

方正には「方正地区日本人公墓」の隣に同じ大きさで、「麻山地区日本人公墓」が建っている。この公墓には、麻山で集団自決した四百人ほどの人々のお骨が納められており、一九八四年に建立された。実はこの公墓建立に力があつたのは金丸千尋である。

金丸は満鉄経営の鉄道技術者養成所に入り、一九四五年四月卒業後、満鉄チチハル検車区に勤務する。満十六歳の時だ。しかしすぐに敗戦。その後、八路军に入った。

一九五八年に帰国した金丸は以後、日中友好運動に全力を投入した。その彼もまた今では黄泉の国の住人であるが、私は生前にインタビューして「金丸千尋 中国・東北との友好に駆けた男」と題して、金丸の人生を描いた。

定価:(本体2,200円)+税
批評社

「満蒙開拓民」の悲劇を超えて
大類善啓 編著

●日本人公墓建立に至る周恩来総理の熟慮、そして黒龍江省政府要人の熱い想い。●公墓建立のきっかけを作り、日中の架け橋となった松田ちあさんの勇気。●中国養父母公墓を自力で建立した遠藤勇氏の苦闘。●麻山事件を背景に「麻山地区日本人公墓」建立に尽力した金丸千尋氏の情熱。●中国政府に招聘され、中国で「水稲王」と誉れ高い評価を受けた藤原長作氏の米作りへの執念など、

孤軍奮闘して日中の架け橋となった人々の愛と涙、感動の実録集。

「満蒙開拓民」の悲劇を超えて
大類善啓 編著

中国・ハルビン市
方正県物語

「開拓」という名にちよって「新天地、満洲へ渡った人々が遭遇した悲惨は、飢えと寒さ、そして発疹チラヌで死屍累々、白骨の山に象徴される。苦難を超えて生き延びた人々の貴重な現代史の証言集である。」

「風雪に耐えた中国の日本人公墓」

中国・ハルビン市
方正県物語

「開拓」という名にちよって「新天地、満洲へ渡った人々が遭遇した悲惨は、飢えと寒さ、そして発疹チラヌで死屍累々、白骨の山に象徴される。苦難を超えて生き延びた人々の貴重な現代史の証言集である。」

自画自賛になるが、これもまた貴重な記録だと思っている。なれるだろう。ぜひ、お手にとっていただき、ご叱正をいただきたいと思う。

新著には、松田ちあ、藤原長作、金丸千尋などの人生の軌跡の他、遠藤勇の人生も紹介している。遠藤は残留孤児だったが帰国し、事業で成功した。しかしいつも頭から離れないのは、中国で育ててくれた養父母への思いだった。そして、中国人の養父母の恩に報いようと「中国養父母公墓」を自らの力で建立したのだ。その墓が二つの日本人公墓がある中日友好園林にある。

このような波乱に富んだ人生を収めた『満蒙開拓民』の悲劇を超えて』をこのたび、批評社より上梓することができた。本誌が出る頃には、この新著を書店の店頭でご覧に

陶々俳壇

陶陶句会
句結
2024年2月

兼題 「黄梅」

馬場由紀子

春節の赤き剪り紙福至る

松島二三四

○紅約 中国では紅色は喜びと幸福をもたらすとされ、春節の切り紙のお飾りなど紅色が主流となる。

○善一 絵馬納む梅ヶ枝餅の温みかな

○明良 大宰府天満宮の梅ヶ枝餅が温かったことを思い出しました。絵馬納むとのつなぎが冴えています。

○正子 今と昔。合格祈願の絵馬と菅原道真公に差し出された梅の枝先の餅の温かき。

○由紀子 福岡の人間にはよくわかる。天満宮にお参りしてからの梅ヶ枝餅は定番ですね。切れが二か所になっているのが残念。

色のなき北京に明き迎春花

○明良 冬の北京はスモックがあって寒々とした灰色の景色でした。淡い色の花でも街を温めてくれるようです。

○正子 昭和の北京では荷馬車を通り、道端には白菜が積まれるという光景が見られました。北京とはそういうところなのでね。

紅梅の黒き枝幹飾りけり 橋本紅約

○善一 一般に紅梅は白梅より開花がややおそい。紅梅の古木の黒い幹に飾られているように咲いている。いい風景である。

われ九十歳あずき粥の春日かな

○明良 おめでと〜ございませう。卒寿とせずには祝いの小豆粥を食べてますませう。活躍ください。

○正子 おめでと〜ございませう。
川沿いに花片こぼれて迎春花

○明良 川の水が流れるよつた流暢な句です。

黄梅が霜を押しつけ背伸びする 瀬崎明良

○正子 空色と黄梅の黄色と霜の輝き。気持ちの伸びやかなる綺麗な句です。

車駆る認知もなく春も来て

○二三四 免許返納など縁なし、春を待つてドライブに行くぞー！というところでしょうか。頼もしい！

○由紀子 軽いタッチの句ですが、その中には深い社会問題が隠れています。

春風が悲しい便り送り来る

○二三四 能登の震災と読みました。「悲しい便り」だけでみんなに伝わる。俳句ならではだと思えます。

初夢や車椅子とれ歩けたり 上野京

○由紀子 なんと切ない初夢です。正夢とならんことを祈ります。

○紅約 車いすが取れるのは夢でしかありえない。時の流れには逆らえないものだと思身迫る思いだ。

初夢やひ孫五人が成長し

○二三四 初夢の句には作者それぞれの願いが込められていますね。ひ孫の成長を新年に願う愛情をいただきました。

初夢や亡き夫と雑煮食べ

○明良 初夢にも出るご主人は素晴らしい人だったでしょう。

黄梅の咲くや人無き谷戸の寺 大内善一

○明良 風情のある寺であったでしょうが跡を継ぐ人もなく故人に植えられた樹木だけが風情を醸しているのでしょう。

○二三四 きれいな景がすっきり詠まれています。

○正子 谷深い村に咲く黄梅は綺麗でしょう。山の緑に囲まれた谷戸の寺に黄梅が咲いて

いる、人の気配がなく落ち着いた静かな雰囲気。黄梅花かりが華やかです。

○由紀子 僧堂で説教聞くと余寒なほ

○二三四 春先のまだまだ寒い板敷きの僧堂、緊張感の中で説教を聞き救いを得ようとしている姿が浮かびます。末尾「なほ」が効いています。

○正子 作者は説教に引き締まる思いなのか、寒さに怯んでいるのか、真意は如何に。

今年またつがい鷺来て啼けり

○紅約 ウグイスは雄一羽が複数の雌とつがいになる繁殖システムである。一夫多妻だが相手が決まったのちの行動でしょうか。

大寒の日差し明るし露天市 日野正子

○善一 寒さに負けない賑わいの露天市と陽光が嬉しく見えます。

○明良 露天市の賑わいが想像できます。

○由紀子 能登報道思いそれぞれ鍋囲む

○紅約 令和6年1月1日16時10分にマグニチュード7.6の「令和6年能登半島地震」が発生した。「鍋」に代わり「お節」「雑煮」の場合もあったことでしょうか。

迎春花香りが顔寄せぬ

○善一 北吹くや本社に消えぬ窓灯り 馬場由紀子

○二三四 昭和のモーレッツ社員を思い浮かべました。「北吹く」が仕事の厳しさと疲労を思わせ

ます。

昼月や霞に沈む都市を出て

○二三四 春霞に沈む都市の上空には昼の月。霞と都市はありそつでない取り合わせ、映像美を感じます。

*旧かな、新かな、作者の意図に任せる。

中国

ウマツチンク



修復を待つ文化財

2021年に湖北省荊州市の王家嘴で楚の墓から約3千2百枚の戦国時代の「簡牘」(訳者註:文字の書かれた竹片や木片)が発見された。2023年には湖南省郴州渡頭古城遺跡で1万枚の呉の紀年をもつ簡牘が発見され、同年末には荊州秦家咀墓地から戦国時代の竹の簡牘3千9百枚の出土が発表されるなど、近年簡牘が大量に出土している。つまり、全国で多くの簡牘が保護と修復を待っているわ

けである。

「長期間地下の酸素のない環境にあった簡牘は、出土と同時に酸化が進み、黒く変色して字が消えてしまう。またバラバラになって保存が難しくなる」と湖北省の荊州文化財保護センターの方北松主任は言う。簡牘の修復、保存には工程ごとに最新の注意が必要なのだ。

青銅器や金銀の文化財と異なり、簡牘は内容の解読が難しく、そのため研究者も少なく、人材が集まりにくい分野である。さらに、現在大学で養成されているのは簡牘研究の人材であり、修復や保護のできる人材は不足している。加えて、保護、修復、整理の統一基準がない。専門家は、権威のある研究者を招いて共同で全国統一の基準や作業手順を策定し、同時に責任の所在や修復期限の明確化を図るべきだと提言している。

〔新華毎日電訊〕2024年4月11日

違法な食品に10倍の賠償金

ある日、胡さんは「腎臓の機能を強化する」というマレーシアのコーヒーに興味を持ち、WeChatを通じて販売業者からコーヒー8箱を購入し、代金36000円を送金した。だが、受け取った商品のパッケージにメーカー名、製造日、賞味期限、製品標準コード、製造許可番号などの中国語情報

が一切記載されていないことに気づいた。そこで、検査会社に検査を依頼したところ、検査報告書で対象のコーヒーに「タダラファイル」が含まれていることが判明した。胡さんは自身の正当な権利と利益を守るため、販売業者との売買契約の解除命令を求めて裁判所に訴訟を起こし、販売業者に代金36000円の返還と代金の10倍の賠償金の支払いを求めた。これに対し被告販売者は、原告が問題を

直ちに連絡してこなかったことを根拠に、本件商品に問題があることを知っていて、多額の賠償金を目的に大量に購入したものと主張した。

裁判所は、取引の客観的事実、被告が検査および検疫証明資料を提供しないこと、さらに当該品には薬物「タダラファイル」が含まれ食品安全基準を満たさない食品であることから、被告は相応の法的責任を負うべきであると認定。同時に、原告の消費行為は日常の合理的な必要量の範囲内として代金の返金と賠償金3万6千人民元の支払いを命じた。

〔新民晩報〕2024年4月26日

アカウントは共同財産か

5年前、謝さんは、とある日常生活の共有を主なコンテンツとした「快手」のショート動画とそこに登場する、威勢が良くユーモラスで才能のある俳優、陳さんのファンになった。

二人はネット恋愛の末、入籍。結婚後、陳さんは同じアカウント名で「抖音」（中国版TikTok）にアカウント登録した。その後彼のオンライン・セルフメディア・ビジネスはますます繁栄し、フォロワーの数は300万人以上に急増、アカウント運営が彼の主な収入源となった。

しかし、結婚後二人は口論が絶えず、やがて二人の関係は破綻した。謝さんは江蘇省蘇州市虎丘区の人民法院に訴訟を起こし、離婚とともにセルフメディアアカウントを含む財産の分割を求めた。

陳さんは離婚には同意したが、2つのショート動画アカウントは個人の財産であり分割すべきではないと主張した。アカウントには個人的な属性があり分割できないものであること、自身の本名で登録および認証されたものであり、アカウントの企画、維持、運営、撮

影、内容は自分が責任を負っていて、謝さんは参与していないことをその根拠とした。また、離婚紛争のため、1年以上アカウントの更新を停止しており、アカウントにはもはや財産的価値はないと陳述した。

裁判所は、結婚後に登録された「抖音」のアカウントはもちろん、「快手」のフォロワー数も二人の婚姻期間に増加、蓄積されたものであると判断した。また2つのアカウントはその広告収入やプラットフォームのトラフィック収入などの経済的利益を考えると財産的属性を有しており、その財産権と収益は夫婦の共有財産に属すと判断した。一方、アカウントは陳氏が登録と運営責任を負い、強い個人的属性を持つていることを考慮すると、財産分割ではアカウントは陳氏のみ所有とするが、陳さんは謝さんに対し、適切な金銭的補償をしなければならな

いとした。調停の結果、補償額は6万6千元で決着した。

〔法治ネット〕2024年4月28日

デジタル化と外国人観光客

5月の連休中に主要観光名所の店舗を訪れた多くの外国人観光客から、食事の注文にも必要なスマホアプリに対する不満の声が聞かれた。訪中外国人は中国国内の携帯電話番号を持たないため、アプリの登録が困難だからだ。

日本から来た吉野さんは、高速鉄道チケットを購入するためアプリをダウンロードし、本人情報を登録したが、長い間待っても認証中と表示されるばかり。結局、窓口購入の長い列に並んだ末、車掌のサポートでパスポートによる購入手続きをなんとか終えた。

英国人観光客のレットさんは、上海旅行中にオンラインタクシー配車サービスを利用

したいと考えAlipayのアカウントを申請したが、中国の電話番号でないため、登録に失敗した。中国人の友人に助けをもらい、海外携帯電話向けサービスを有効にする手続きに半日かかったという。

イラン人留学生のミアさんは、上海を訪れた故郷の友人に、半日かけてスキヤンの仕方を教え込んだ。「紅茶専門店では、たとえ店員が隣に立っていたとしても、注文にはQRコードをスキャンしなくてはならない」。

上海市政府の専門家、顧曉民参事官によれば、国内はデジタル化、インテリジェント化が進み、各種アプリは多くのほとんどの店舗で標準機能となっているが、それらアプリはどれも中国国民向けに設計されたもので、訪中外国人の使用が考慮されていないという。

〔解放日報〕2024年5月6日



◆第13回定時社員総会の概況報告 (5月23日開催)

現時点で詳細を述べることはできないが、主な概況は次の通りである。

2時半の定刻に事務局長が出席状況を報告した。会場への出席者は50名、書面出席が49名、合計99名である。本年3月末の正会員は142名、過半数は72名したがって定款第18条に照らして有効に成立したことを報告した。

●決議事項

- (1) 令和5年度事業報告(案)
 - (2) 令和5年度決算(案)
 - (3) 理事6名選任の件
 - (4) 監事1名選任の件
 - (1)(3)(4)については原案通り可決した。(2)については記載された表に誤記があり、修正を条件に可決された。
- 報告事項
- (1) 令和6年度事業計画
 - (2) 令和6年度予算
 - (3) 顧問・諮問会委員の改選
- 上記3件について担当常務理事及び会長より報告した。

総会終了後に、会場で会員懇親会を開催した。(事務局長 竹前栄男)

会員だより

▼会員寄贈図書

- 矢吹晋様より『矢吹晋著作選集 別巻 朝河貫一顕彰』(矢吹晋著、未知谷)
- 丸田洋二様より『曠野に出現した都市 新京 満洲清水組の足跡』(丸田洋二著、権歌書房)

●藤沼敏子様より『不条理を生き貫いて 34人の中国残留婦人たち』『あの戦争さえなかったら 62人の中国残留孤児たち(上)―北海道・東北・中部・関東編』『あの戦争さえなかったら 62人の中国残留孤児たち(下)―関西・山陽・四国・九州・沖縄・中国の養父母編』『WW II 50人の奇跡の命』(以上、藤沼敏子著、津成書院)

同好会だより

〈俳句会〉 毎月第2水曜日午後1時から、オンライン(Zoom)での俳句会を開催しています。馬場由紀子先生のご指導はわかりやすく和気あいあいとしてます。

未経験者も大歓迎ですので、興味のある方は事務局までご連絡ください。

〈謡曲会〉 松木千俊先生のお稽古は一人ずつの個人指導です。

未経験者も大歓迎ですので、興味のある方は事務局までご連絡ください。

みんなの写真館

ブダペストの国会議事堂 (表紙)

2023年7月にハンガリーを訪問したときに、ブダペストのドナウ川夜景ツアーに参加しました。ブダペストはハンガリーの首都で、その美しさから「ドナウの真珠」「東欧のパリ」などと称されます。その夜景の中でも格別な美しさを誇るのが国会議事堂です。昼間でも美しい建築物ですが、夜間はライトアップされており、昼間とは異なった幻想的な雰囲気漂い、川にライトアップの光が反射し、とても美しいです。この国会議事堂は、首都ブダペストのペスト側、ドナウ川岸辺という一等地に位置します。1885年に建設が始まり、1896年に建国1000年を記念し、完成は1904年。

1936年10月19日、上海で死没し、上海西郊にある「万国公墓」に葬られた。1956年20回忌を記念して上海市内の魯迅公園に移され、全国重点文物保护单位に指定された。花崗岩の墓碑の揮毫は毛沢東によるもので、元の墓碑は同公園内にある魯迅記念館で保存展示されている。(新宅久夫)

ゴシック・リバイバル建築です。全長268メートル、ハンガリーで一番大きい建物で、世界で3番目に大きな国会議事堂です。(姜晋如)

カナダ人外科医ノーマン・ベチューン(白求恩)の墓 1981年6月21日参拝(表4下)

1938年日本の帝国主義が全面的に中国を侵略した時期に、カナダ共産党員ベチューンは医療支援のため従軍していたが、転戦する中で戦場外での医学教育と医療活動にも力を入れた。前線で手術中に指を切ったことが原因で、敗血症に罹り1939年11月12日石家荘で亡くなった。毛沢東はベチューンの国際主義による無私の活動を高く評価し、墓所は石家荘の華北軍区烈士陵園にある。吉林大学ベチューン医学部は彼を記念して命名された。(新宅久夫)

偉大な魯迅の墓 1980年3月26日参拝 (表4上)

2024年7月の行事予定

- 4日(木) 14:00 公開 第10回対面&オンライン講演会
「生き残りをかけた車載電池事業と日本の政策」
佐藤登氏(名古屋大学未来社会創造機構客員教授、経営戦略専門家)
- 9日(火) 14:00 謡曲会(松木千俊先生お稽古)
- 10日(水) 13:00 俳句会
兼題「夏痩せ」及び当季雑詠から5句を投句(6月末までに)
- 11日(木) 14:00 公開 第11回対面&オンライン講演会
「標準化による国際的エコシステムの形成」
田辺孝二氏(東京工業大学名誉教授)
- 19日(金) 14:00 公開 第1回【21世紀アジア塾】講演会(講演委員会と共催)
「海外放浪から考えた日本の価値—中国社会をあれこれ言うことの出発点の試案」
麻生晴一郎氏(ルポライター、NPO「Asia Commons 亜洲市民之道」主宰)
- 25日(木) 14:00 公開 第12回対面&オンライン講演会
「現在・未来の半導体市場と産業の動向~日本の立ち位置と世界との関連」
津田建二氏(国際技術ジャーナリスト、News & Chips 編集長)

7月の会議予定

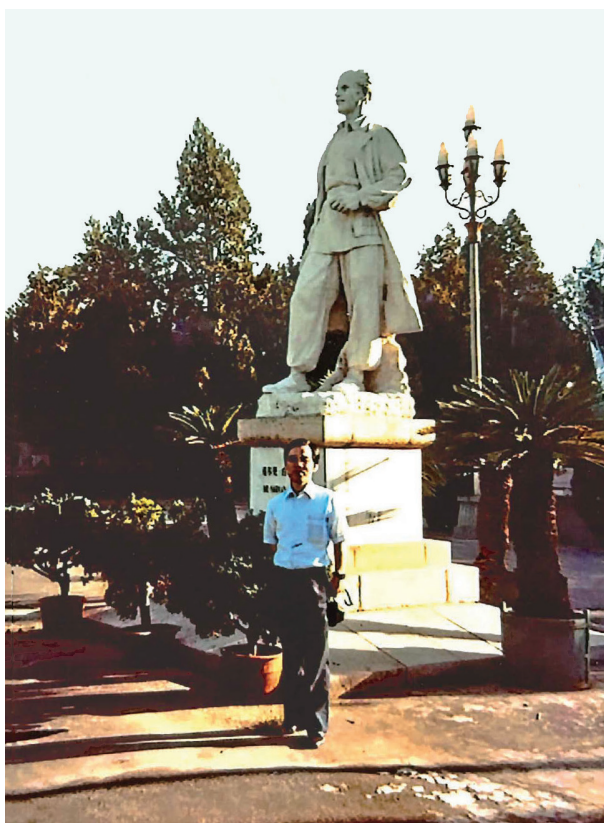
2日(火) 13:00	国際交流委員会	18日(木) 15:30	広報委員会
9日(火) 13:00	環境委員会	24日(水) 13:00	東北委員会
18日(木) 13:00	理事会(第5回)	26日(金) 14:00	講演委員会

※下線は通常日程に変更あり。

【8月の講演会予定】

- 23日(金) 14:00 公開 第2回【21世紀アジア塾】講演会(講演委員会と共催)
「『中国観察報告』から」(仮題)
結城隆氏(多摩大学客員教授、当会会員)

みんなの 写真館



INTERNATIONAL GOOD NEIGHBORHOOD ASSOCIATION (IGNA)
<https://www.kokusaizenrin.com>

ISSN038610345
二〇二四年(令和六年)七月一日・毎月一日発行

「善隣」第五四九号(通卷八一六)

発行所

〒一〇五〇〇〇四 東京都港区新橋一五五
一般社団法人 国際善隣協会
電話 〇三三五七三三〇五(番代表)